

古文 読解問題 「宇治拾遺物語」 検非違使忠明 ①

これも今は昔、忠明といふ検非違使ありけり。それが若かりける時、清水の橋のもとにて京童部どもといさかひをしけり。京童部、手ごとに刀を抜きて、忠明を立てこめて殺さむとしければ、忠明も太刀を抜きて、御堂さまに上るに、御堂の東の端にも、あまた立ちて向かひ合ひたれば、内へ逃げて、部のもとを^①脇に挟みて前の谷へ躍り落つ。^②部、風にしぶかれて、谷の底に、鳥の居るやうに、やをら落ちにければ、それより逃げて往にけり。京童部ども谷を見おろして、あさましがり、立ち並みて見けれども、すべきやうもなくて、やみ^③にけりとなむ。

問一、次の文は「宇治拾遺物語」について説明したものである。空欄に入る言葉を語群の中から選びなさい。

「宇治拾遺物語」は（ア）時代初期に書かれた（イ）文学（集）である。作者は不詳で、『宇治大納言物語』に入らなかつた（ウ）がまとめられたものだ^①とされている。後世にも影響を与え、（エ）が書いた「鼻」は「鼻長き僧の事」から着想を得たとされている。

【語群】

・平安 ・鎌倉 ・室町 ・物語 ・説話 ・随筆 ・芥川龍之介 ・夏目漱石 ・森鷗外

問二、傍線部ア、オの動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

問三、傍線部①「脇に挟みて前の谷へ躍り落つ」の動作主として正しいものを次の選択肢から選びなさい。

ア、筆者 イ、忠明 ウ、京童部 エ、御堂の仏

問四、傍線部②「部、風にしぶかれて、谷の底に、鳥の居るやうに、やをら落ちにければ」を現代語訳しなさい。

問五、傍線部③「に」と同じよう用法で使われているものを次の選択肢から選びなさい。

ア、いとよきことにこそあなれ。その宮は、いとあてに、けけしうおはしますなるは。（和泉式部日記）
イ、この御社の獅子の立てられやう、さだめてならひあることに侍らん。ちと承らばや。（徒然草）
ウ、思はざりしなり。巫山の雲、漢宮の幻にもあらざるや。」と繰り言果てしぞなき。（雨月物語）
エ、十文字にかけわつて、うしろへつつと出でたれば、五十騎ばかりになりにつけり。（平家物語）

読解問題 「宇治拾遺物語」 検非違使忠明」 ① 解答・解説

問一、 ア 鎌倉 イ 説話 ウ 芥川龍之介

問二、 ア いいける

…文の先頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変換する。

イ まちいたる

…「あ」は「い」に変える

ウ おさなきひと

問三、 イ

問四、 薮が、風に支えられて、谷の底に鳥が止まるように、そっと落ちたので、そこから逃げていったのだ。

問五、 エ